

平成 2 7 年度

岡山市書写教育研究会



岡山市立三勲小学校

研 究 会 要 項

- 1 研究主題 持続可能な社会づくりに向けて主体的に取り組み、ともに育ち合う児童の育成
～郷土の文化と日本の伝統文化に着目した授業の創造～

- 2 期日 平成27年10月15日（木）

- 3 会場 岡山市立三軒小学校

- 4 日程

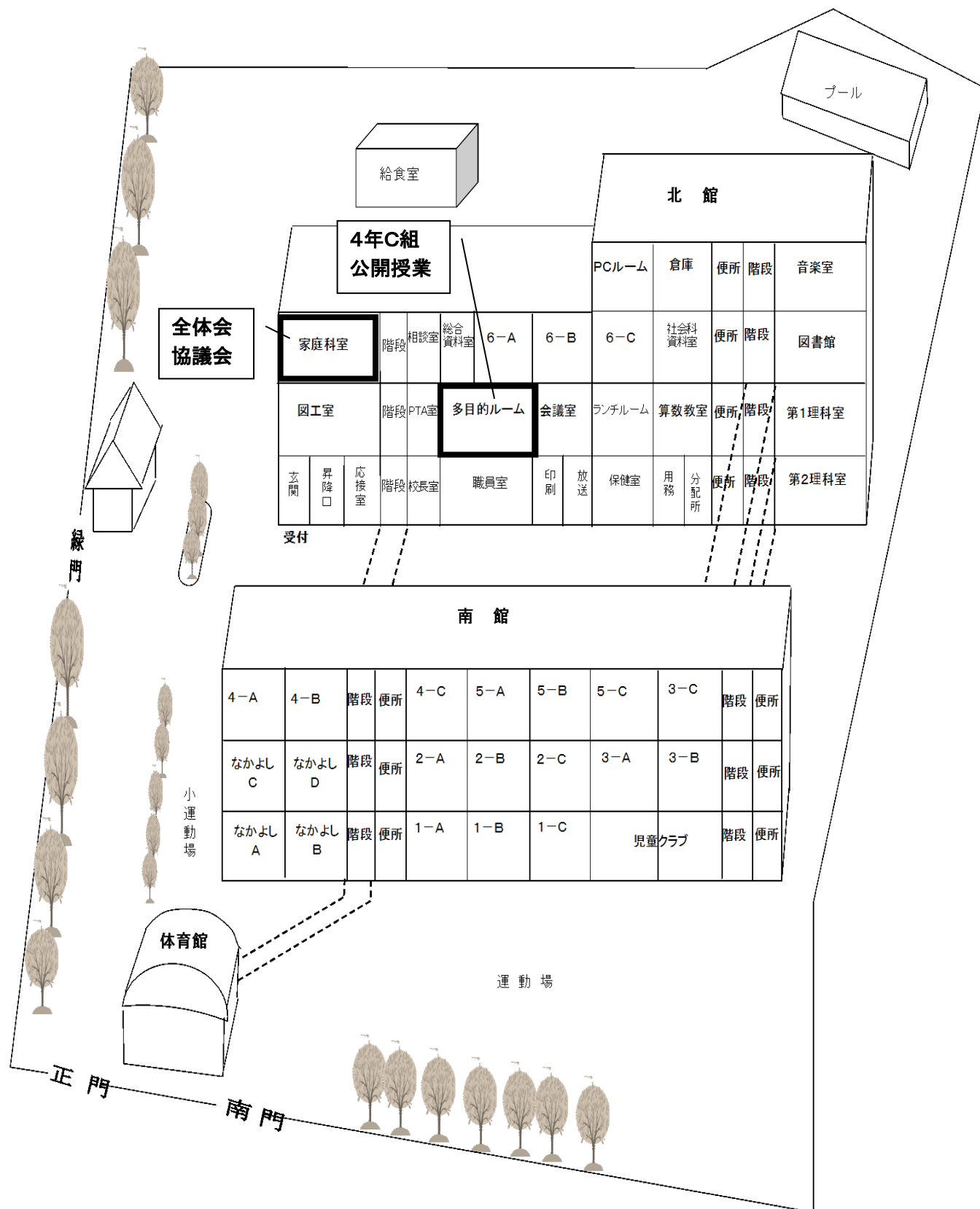
13:00 13:25 13:55 14:40 15:10 15:30 16:45

受付	移動	公開授業	移動・休憩	授業者紹介 授業者反省 挨拶 講師紹介 授業者挨拶	協議会 グループ協議 報告 指導助言 挨拶
玄関		多目的室 (北館2階)		家庭科室 (北館4階)	

- 5 公開授業

公開学級	題材名	授業者
4年C組	文字の組み立て方を 考えて書こう	貝田 智彦

三勲小学校 学校案内図



持続可能な社会づくりに向けて主体的に取り組み、ともに育ち合う児童の育成
～郷土の文化と日本の伝統文化に着目した授業の創造～

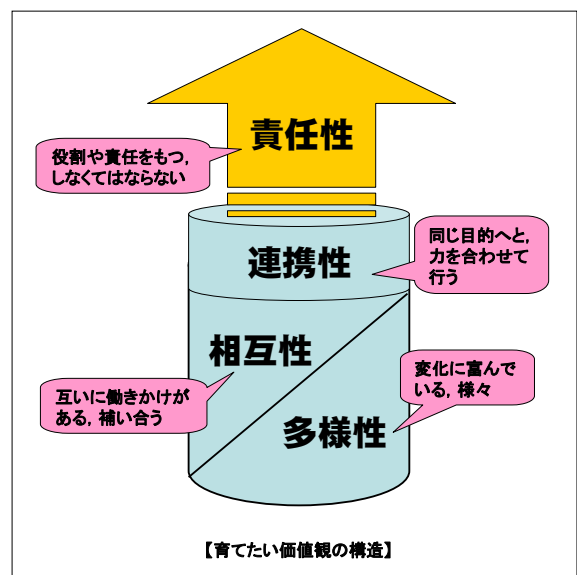
持続可能な社会とは、21世紀の人類が目指す理想社会の姿と言われている。持続不可能になりつつある地球上の問題を一人一人が自分のこととして受け止め、身近なところから行動や取組を変えていくことで、将来にわたって安全で安心した平和な生活ができるようになった社会のことであるからである。そのような社会の担い手を育てるE S Dにおいて、「持続可能な開発・発展を尊重する価値観の育成」と、「持続可能にするための能力・態度の伸長」の2つが達成すべき大きな目標になると考える。

本校では、地域における環境や人権、歴史、文化などを学ぶ「ふるさと学習」を進めてきた。その集大成として、6年生児童が能学習に取り組み、毎年秋には岡山後樂園の能舞台で学習の成果を発表している。日本の伝統文化の1つであり、ユネスコの無形文化遺産にも登録される能楽を学ぶことは、子どもが地域や地域の文化財を守ろうとする意識をもち、我が国の伝統文化を継承する担い手を育てる良い機会となっている。このような取組を継続する意味でも、また学区・地域の特色からも考えて、E S Dで取り上げられる幅広い内容領域の中から、「伝統文化」に絞って実践研究を進めているところである。

1 持続可能な開発・発展を尊重する価値観の育成

文化や伝統は、生活環境や人の行動・表現の仕方、問題の解決方法などに影響を与えている。そのような影響を受けた人は、個人としての、あるいは所属する集団や地域・社会特有の価値観（生活や行動の基準や規範）を知らず知らずに身に付けていくこととなる。影響を受けたり、慣れ親しんだりした文化や伝統を大切であるとする価値観は、自信や自分の考えのよりどころとなり、これまで同様に、21世紀も引き続き大切にされていくものと考えられる。

また、自分のもつ文化や伝統を大切にする人は、相手や他国がもっている文化や伝統を理解・尊重し、多様な立場や価値観をもつ人と協調していくことができると考える。自分との違いばかりにとらわれるのではなく、相手にも自分たちと同様に大切にされてきたものがあるといった、相互理解につながる本質に目を向けられる



からである。国際社会が向かうと言われる多文化共生社会の一員として他国の人と共生する意識は、21世紀にますます重要になるものとする。

そこで、伝統文化を中心としたE S Dの実践を通して、本校の子どもに、地域のよさや我が国の伝統文化の素晴らしさを実感させ、自分や自分たちには受け継ぐ責任があるといった価値観を育てたいと考えている。地域や伝統文化に即したものであり、各教科等の学習内容を踏まえて、また小学生という発達段階から考えて、価値観の構造を前頁の図のように想定している。小学校6年間の学習を終えた最終的な段階で、責任性を含めた価値観が培われることを目指している。

子どもに育てたい価値観

- (1) 多様性：地域のよさや伝統文化は様々な特色をもっている。
- (2) 相互性：地域・伝統文化は、いろいろな影響を受け合って今の姿や特色がある。
- (3) 連携性：地域の維持・発展や、伝統文化の保存・継承といった目的に向かって協力・連携がなされている。
- (4) 責任性：地域のよさや伝統文化に対して、自分にも関わっていく責任がある。

各単元の学習内容を吟味・検討し、見えやすい価値観を重点的に取り上げることにより、児童が持続可能な社会づくりのために大切なことにふれていくことができるようにする。道徳の時間や総合的な学習の時間などに関連的な指導を行う、学習の前後での自分の考えの変容をふり返る、見通し・計画がどのように実行できたかを確かめる活動を位置付ける、またその際の教師の働きかけを工夫することなどを、具体的な指導の手立てとして取り組んでいるところである。

2 持続可能にするための能力・態度の伸長

持続可能な社会の実現に向かう際には、これまでにあった知識の応用だけでは解決できない課題に行き当たることが十分に予想される。共通に学習した知識にたよることや知識を受け継ぐだけでは限界があり、自分や社会の状況に応じて知識を創り出しながら、目の前の課題と向き合う姿勢が求められる。

そこで、下記のような育てたい4つの力を設定し、児童がこれらの力を発揮しながら学習を展開することにより、E S Dのキーワードである「つながり（＝お互いの関係性）」を実感していくものと考えている。

子どもに育てたい4つの力

- (1) 事象のよさや問題点を多面的・総合的・批判的に考える力
- (2) 地域のよさや、伝統・文化の値打ちをとらえる力
- (3) 他者と進んで関わる力

(4) 地域や伝統・文化と自分とのつながりを見出し、働きかける力

(1) 事象のよさや問題点を多面的・総合的・批判的に考える力

学習する内容の中に、内容同士の関係性や変化、移り変わりなどといった「つながり」を実感するための力である。各教科・領域で経験する、比較、関係・関連付け、推論、帰納・演繹などといった思考・判断・表現する力が元になると考えている。

(2) 地域のよさや、伝統・文化の値打ちをとらえる力

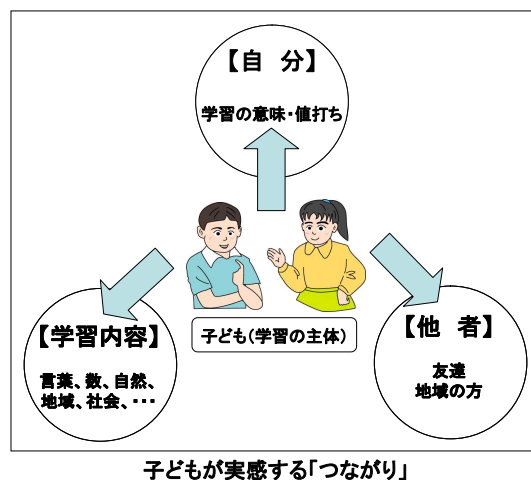
学習を通してふれた内容について、現在もまた将来に向けても大切なものであると考えたり、自分に関係のあることとしてとらえたりして、自分と学習内容との「つながり」を実感するための力である。

(3) 他者と進んで関わる力

学習を共に進める友達や、学習を通して出会ったり関わったりした方々との「つながり」を実感するための力である。考えや立場が異なる相手とも思いを共有したり共通理解を図ったりする、周囲と協調して新しい考えや取組をつくり出すことにつながるものと考えている。

(4) 地域や伝統・文化と自分とのつながりを見出し、働きかける力

現在おかれた立場や身に付けている知識、能力などから考えて、自分にできることを見出し、取り組んでいこうとする力である。E S D のもう一つのキーワードである「かかわり」の元になると考えている。



このような学習を積み重ねることにより、持続可能な社会づくりへの価値観や能力・態度を培っていきたいと考える。児童は学習経験や身に付けた力や知識を駆使して、さらに主体的に学習を進めようになる。学習の主体者としての経験は、持続可能な社会に向けての課題にも当事者としての意識をもって行動していく姿につながるものとする。

いろいろなつながりを実感し、価値観を身に付けた子どもが、「自分や自分たちには文化や伝統を受け継ぐ責任があると考えている子ども」となるよう、育てていきたいと考えている。

1 単元名 文字の組み立て方を考えて書こう

2 単元目標

- 左右、上下の漢字の部分を組み合わせ、正しく整った字形について考えを話し合うことにより、単元のめあてを自分たちで考えることができる。
- 左右、上下に組み立てるときは、左右の幅や点画の形状、上下の高さが変化することに気づき、字形を整えて書くことができる。

3 単元計画（全5時間）

- 第1時 左右、上下の漢字の部分を組み合わせ、正しく整った字形について考えを話し合うことにより本単元のめあて「譲り合いに気をつけて書く」をつかむ。
- 第2時 自分のめあてに合った方法で、筆遣いに気を付けて「林」を書く。
- 第3時 自分のめあてに合った方法で、筆遣いに気を付けて「岩」を書く。（本時）
- 第4時 「林」、「岩」の学習を生かし、左右、上下の組み立て方を考えて「土地」「竹笛」「練習」課題を選んで書く。
- 第5時 左右、上下の部分のはばのちがいを考えて書く。（硬筆）

4 本単元で育てたい力と価値観

よさや問題点を多面的・総合的・批判的に考える力と相互性

本学級の児童は、試し書きとお手本を比べることにより、自分のめあてをもって作品作りに取り組んできた。また、「まとめ書き」の前には自分の気をつけて書いたところを友だちと伝え合うことで、それぞれの字形の整え方に気づき、自分の書く際に活かすようにしてきた。そうすることで、どのように書いたらよいかを多面的・総合的に考える力が育ってきている。しかし、友だちと気をつけて書いたところを伝え合う場面では、よくできたところばかりに目がいきがちである。本単元では、文字の組み立て方と字形について学習する。左右や上下の部分で構成される漢字は、字形を整えるために相互に「譲り合い」が生じ、その変化を意識して書くことを本単元を通してのめあてとして一人ひとりに捉えさせる。そうすることで、自分の書いた文字がめあてに対してどうであったか振り返ったことを友だちと伝え合う場面では、よくできたところだけでなく、左右、上下の組み立てる際に生じる変化に目を向け、改善点を伝え合うことができると考える。その友だちの作品の改善点を見つけ、自分や友だちの書く文字に活かそうとする力を批判的に考える力と捉え、本単元では、「よさや問題点を多面的・総合的・批判的に考える力」を育てたいと考える。

単元の導入では、左右の組み合わせ（「木」と「木」）からできる「林」や上下の組み合わせ（「山」と「石」）からできる「岩」について、それぞれの部分の漢字カード（点画の大きさや高さ、止めはらいが異なったカード）を用意する。それを自由に動かし、字形が整う左右、上下の組み合わせを考える活動を通して、字形を整えるために左右、上下の文字と文字との「譲り合い」が生じていることに「相互性」を見出していくものと考え、本単元のねらいとしている。

5 本時の指導の手立て

導入では、上下の部分の組み立てのバランスが悪い作品を提示し、どこを直せばよいか問うことにより、本単元のめあて（上下の文字と文字との「譲り合い」が生じていること）を確認できるようにする。練習時には、いくつかの練習用紙（かご字、ほね字、始筆の位置、外形）を用意し、自分のめあてに合った練習用紙を選択できるようにすることで、主体的に学習を進めていけるようにする。また、まとめ書きをする前には、ペアトークをさせることにより、自分の作品のよくできたところだけでなく、改善点にも気づくことができ、まとめ書きへの意欲を高めるようにする。まとめの場面では、

「箱」，「星」を提示し，どんなところに気をつけて書けばよいか問うことにより，「岩」だけでなく上下に組み立てられた漢字は，「譲り合い」に気をつけて書くことで字形を整えることにつながることに気付かせるようにしたい。

6 本時案（第3時）

多目的室

目 標	自分のめあてを意識して練習したり，友だちとそれぞれの書いた文字のよさや改善点を話し合ったりすることにより，上下の部分の「譲り合い」に気をつけて書くことができる。	
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	現れる子どもの姿
1 本時のめあてを確かめる。	○ 上下の部分の組み立てのバランスが悪い作品を提示し，どこを直せばよいか問うことにより，本単元のめあてを確認できるようにする。 上下の部分のゆずり合いに気をつけて書こう。	
2 自分のめあてをもつ。	○ 試し書きをした後，お手本と比べることにより，本時の自分のめあてを見つけることができるようにする。 ○ お手本に自分のめあてを書かせることにより，めあてにふり返り練習できるようにする。	
3 「岩」を練習する。	○ いくつかの練習用紙（かご字，ほね字，始筆の位置，外形）を用意することにより，自分のめあてに応じて練習方法を選択できるようにする。 ○ 正しく筆を持てなかったり，姿勢が崩れたりする児童には，声をかけたり，筆と一緒に持って練習したりすることにより，正しい筆の持ち方や姿勢を確認することができるようにする。 ○ 練習した作品とお手本を比べることにより，めあてに対してよくできたところと改善点を見つけることができるようにする。 ○ ペアトークをさせることにより，自分では気づかなかった改善点に気づかせ，まとめ書きに活かせるようにする。	自分や友だちの文字のよいところだけでなく，改善点を見つけ，伝え合っている。
4 まとめ書きをする。	○ 試し書きとまとめ書きを比べさせ，良くなった部分やめあてを意識できたところを尋ねることにより，自分のめあてに近づいた作品ができたか振り返ることができるようにする。	
5 まとめをする。	○ 「笑」や「星」を提示し，どんなところに気をつけて書けばよいか問うことにより，「岩」だけでなく他の文字についてもそれぞれの部分の文字が譲り合うことで字形が整えられていることに気づくことができるようにする。	
上下の部分を組み立てる時には，それぞれの部分の譲り合いに気をつけて書くとき正しく整った字が書けそうだな。		